

愛知・大毛沖遺跡
おおけおき

- 1 所在地 愛知県一宮市大字大毛
- 2 調査期間 一 一九九三年(平5)七月～十二月
二 一九九四年二月～一九九五年一月
- 3 発掘機関 (財)愛知県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 一 永井宏幸・小池一徳・栗林典昭
二 永井宏幸・小池一徳・牧 謙治
- 5 遺跡の種類 一 集落跡、二 河川跡
- 6 遺跡の年代 古代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(岐阜・名古屋北部)

大毛沖遺跡は、一宮市域の北東部、木曾川左岸に形成された自然堤防及びその後背湿地に立地する。東海北陸自動車道建設の事前調査として、一九九三年から一九九五年にかけて調査を実施した。

九三A区SX〇一は、居

住域Iとされる中世集落の一端に位置する。SX〇一は一三世紀前半の大型の廃棄土坑で、卒塔婆が一点、その他に梅檀の種子、山茶碗、伊勢型鍋、白磁、青磁が出土している。また、体部外面に判読不能の墨書がみられる山茶碗一点、「まッ」と底部外面に書かれた小皿一点が出土している。

九四G区SX〇二は、遺跡の中央を北東から南西にかけて縦断する、古代から中世の河川に合流する溝である。SX〇二は上位層に拳大の河原石を敷き詰めてあり、ここから九世紀後半頃の呪符木簡が一点と灰釉陶器片が出土した。

8 木簡の积文・内容

一 九三A区

(1) 「南无大□」

(108)×35×3 061

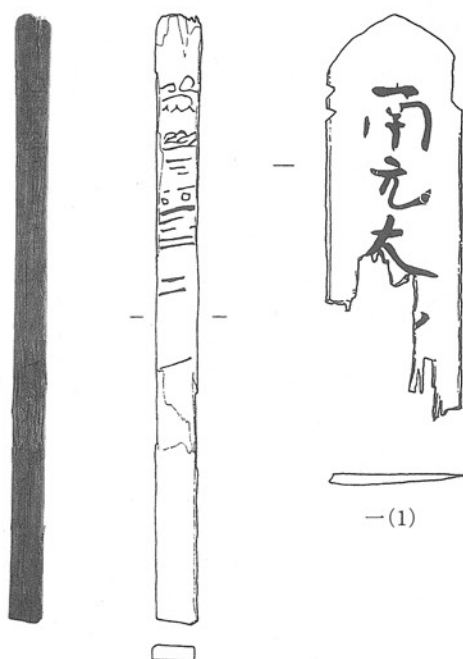
上部の形状は圭頭で、その下に切り込みが二条入る。下部は欠損しているため、墨書の全容は明らかではないが、形状と表記内容から卒塔婆とみられる。

二 九四G区

(1) 「〔符録〕」

320×20×7 011

上部が一部欠損しているものの、ほぼ完形品。記載内容は不明で



一(1)

二(1)

あるが、符籙の記載から呪符木簡の断片と考えられる。

9 関係文献

(財)愛知県埋蔵文化財センター『大毛沖遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書六六、一九九六年)

(永井宏幸)

木簡研究 第二四号

巻頭言—情報化と松と檜—

二〇〇一年出土の木簡

東野治之

概要 平城京東市跡推定地 薬師寺旧境内 旧大乘院庭園 東大寺
藤原宮跡 藤原京跡左京二条二坊 藤原京跡左京六条二坊・七条二坊
石神遺跡 飛鳥池遺跡 長岡京跡 平安京跡右京六条三坊七・八・九
十町 佐山遺跡(B2地区) 大坂城跡 東心斎橋一丁目所在遺跡
広島藩大坂蔵屋敷跡 鬼虎川遺跡 上津島遺跡 上町東遺跡 六条遺跡
跡 明石城武家屋敷跡 溝之口遺跡 赤穂城跡二の丸 志賀公園遺跡
下懸遺跡 仁田館遺跡 史跡建長寺境内 宮町遺跡 柳遺跡 八角堂
遺跡 柿田遺跡 八幡遺跡群社宮司遺跡 荒田目条里制遺構・砂畑遺跡
跡 泉慶寺跡(陸奥国行方郡衙) 中野高柳遺跡 市川橋遺跡 仙人
西遺跡 十二柱B遺跡 観音寺廃寺跡 本莊城跡 北遺跡 盤若台遺跡
跡 高間(六)遺跡 福井城跡 畝田・寺中遺跡 北中条遺跡 指江
B遺跡 四柳白山下遺跡 寺地遺跡 岩倉遺跡 六日町余川地内試掘
調査地点 北小脇遺跡 浦廻遺跡 船戸桜田遺跡 船戸川崎遺跡 出
雲国府跡 川入・中撫川遺跡 安芸国分寺跡 南前川町二丁目遺跡
南斎院土居北遺跡 高知城伝下屋敷遺跡 中原遺跡 京田遺跡
一九七七年以前出土の木簡(二四) 平城宮跡
釈文の訂正と追加(五)
荒田目条里遺跡(一七号) 飯塚遺跡(二二号)
都城出土漆紙文書の来歴
但馬特別研究集会の記録

古尾谷知浩

日高町の古代遺跡と出土木簡…加賀見省一、出石町の古代遺跡と木簡
…小寺誠、袴狭遺跡出土木簡と但馬国豊岡盆地の条里…山本崇、九世
紀の国郡支配と但馬国木簡…吉川真司、文書と題籤軸(報告要旨)……
杉本一樹、討論のまとめ…館野和己・今津勝紀

彙報

頒価 五〇〇〇円 送料六〇〇円